

富士吉田 市婦連だより

発行
富士吉田市連合婦人会



会長
渡辺 長富江

あいさつ

3年以上及んだコロナ禍も5月には5類へと移行し、以前のような様々な活動を行えるようになりました。大勢の会員の皆様と共に実り多い1年を過ごすことが出来たことを心より感謝申し上げます。

市民夏祭りでの5年ぶりの路上での盆踊りに、環境問題をはじめとして、自治会と連携しての地域づくり、青少年育成、交通安全母の会、赤十字奉仕団活動とコロナ前と同様の活動を推進して参りました。

中でも、長年継続しております毎月10日実施のシートベルト着用調査は、市内5カ所で指導に当たっている婦人会員をお忙しい勤務の中、警察署長自ら激励して下さいました。

災害は忘れたころにやってくる時代から身近にやってくる時代となりました。

共助の精神に基づく平時からのボランティア活動の必要性を痛感します。

婦人会では、福島県をはじめとして関東5県を襲った台風13号により甚大な被害にあった被災地に日赤を通してふれあい募金より義援金を送らせていただきました。

そんな状況の中、年明けの1月1日、突然起きた石川県の大震災。被災地の方々が1日も早く通常の生活に戻るために何か行動をと、婦人会（赤十字奉仕団）役員で市内のスーパー店頭にて募金活動をしました。集まった、皆様の心温まる義



能登半島地震義援金を日本赤十字社富士吉田地区長へお届けしました



能登半島地震義援金活動

援金31万8646円を日本赤十字社富士吉田地区長である堀内茂市長へとお届けしました。

本年1月、73周年記念・新春のつどいを開催し、大勢の会員のOB・来賓の皆様方の出席のもと、富士吉田独自の新たな婦人会活動をスタートすることができました。

これらの常日頃の婦人会の長年の貢献に対し、市より感謝状を頂きました。

県下でも婦人会減少の中、当富士吉田市は、堀内市長はじめ行政の皆様への応援があつて活動出来ますことに感謝申し上げます。1年間の活動のご報告とさせていただきます。

令和5年度定期総会 婦人会幹部研修会

5月31日（水）、市民会館小ホールにて、富士吉田市連合婦人会、交通安全母の



会、日赤奉仕団富士吉田地区の定期総会が富士吉田市長、市議会議長、富士吉田警察署長、日赤山梨支部長など多数のご来賓の皆様のご臨席を賜り開催されました。

令和4年度の事業報告、決算報告、役員の任期満了に伴う新役員の承認、また本年度の事業計画及び予算案についての審議及び承認も行われました。

また幹部研修会の講演では、日本赤十字山梨県支部の花村氏より、全国での赤十字の事業活動をスクリーンにて説明を受け、赤十字の理念と重要性について理解を深めた講演でした。

さらに、元山梨県連合婦人会会長の真田幸子氏より婦人会の歴史と事業の講演を受け、地域婦人会としてこれからの取り組みの一考となりました。

富士吉田市婦連だより 第26号発刊に寄せて



富士吉田市長
堀内 茂

富士吉田市長あいさつ

「富士吉田市婦連だより第26号」のご発刊、誠にありがとうございます。

富士吉田市連合婦人会の皆様には、市政全般に対し多大なるご協力を賜り、また、このまちを盛り上げていただいておりますことに厚くお礼申し上げます。

今年は1月1日から、石川県能登半島地震の痛ましい災害のニュースで始まってしまいました。本市も職員を派遣するなど、全力で支援を行っておりますが、連合婦人会の皆様は、被災された方々のためにと即座に募金活動を行い、届けていただきました。ウクライナ危機の際にもそうでしたが、いざ、有事の際には、まず先に行動されるその奉仕の精神に、大変痛み入ると同時に富士吉田市の誇りであると考えております。

新型コロナウイルスや不安定な世界情勢、物価高や各地で起こる災害など、人々の心は疲弊しきつております。そのような中、日常のご多忙にもかかわらず、自己犠牲の精神で積極的に活動される皆様の姿に、市民は元気をもらい大変救われております。

皆様におかれましては、引き続きこのまちの中心的団体として市政発展のためにお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

結びに、富士吉田市連合婦人会の今後ますますのご発展とご多幸を心からお祈り申し上げます、挨拶とさせていただきます。



富士吉田市議会議長
勝俣 大紀

富士吉田市議会議長 あいさつ

「富士吉田市婦連だより」の発刊、誠にありがとうございます。

富士吉田市連合婦人会の皆様におかれましては、平素より市政全般並びに市議会活動に対し、温かいご理解と多大なるご協力を賜っておりますことに心から感謝申し上げます。

昨年、富士山は世界文化遺産登録10周年を迎え、登山者のみならず、大変多くの観光客が本市をはじめとする富士北麓地域に来訪しました。

今後におきましても、世界文化遺産の麓のまちとして、信仰と芸術の源泉である富士山の普遍的価値をしっかりと守り、市民の皆様が安心して暮らしていただけるよう、市議会といたしましても、より一層尽力してまいります。

富士吉田市連合婦人会の皆様におかれましても、世界文化遺産富士山を世界に誇る日本のシンボルとして、この美しい姿のまま未来に引き継いでいくことができるよう、御支援、御協力をよろしくお願いいたします。

結びに、富士吉田市連合婦人会が渡辺会長のもと、ますますご活躍されることをご祈念申し上げ、あいさついたします。

日本赤十字社本社見学

婦人会の主な活動の一つに赤十字奉仕団としての活動があります。そのため、赤十字について学ぶ研修を6月13日（火）に行いました。東京都港区の日本赤十字社の本社を訪れ、その成り立ちからこれまでの活動など展示物を拝見しながら学びました。世界各地における戦争や紛争、日本各地での自然災害などの現場において赤十字が担ってきた大きな役割を

改めて認識しました。

今なお世界各地で起きている戦争や紛争、自然災害など私たちの暮らしを脅かし、多くの犠牲を生む危機があります。

「『人道』の実現を求めて」という理念に深い感銘を覚えるとともに、私たちに何が出来るのか、何をすべきかを考える機会をいただきました。



富士吉田市連合婦人会 73周年新春の集い



1月23日(火)、『富士吉田市連合婦人会73周年記念 新春の集い』が開催されました。

ホテルハイランドリゾートにて、富士吉田市長様をはじめ、数多くの来賓の方々にお越しいただき、また、歴代の市連の会長さん、OBさんなど、総勢110名の方にお集まりいただき盛大に開催出来た事を大変感謝しております。

一部の式典では御祝辞などを賜りありがとうございました。一部では来賓の方の余興、各地区の婦人会の方々の歌あり、踊りやダンスなど、多彩な余興で盛り上がりました。三年振りのこの様な行事が出来た事が凄く嬉しく思いました。新年早々の災害、事故など心を痛める

事などがあり大変な年明けになりました。会場では、能登半島地震の義援金も募り少しでもお役に立てればなと思いましたが、また、役員の方々には準備から色々と大変だったと思います。本当にご苦勞様でした。

シートベルト着用調査

婦人会活動には「交通安全母の会」としての活動があり、毎月10日の朝、市内5カ所においてシートベルト着用調査を行っています。6月10日(土)には、富士吉田警察署より3名の警察官が巡回指導に来て下さり、有意義な呼びかけができました。

シートベルト着用調査と同時に、携帯電話使用の有無についても調査しています。私達の姿を見て「気をつけよう、やめよう」と思われる方もいるでしょう。それも有難いことです。



が、呼びかけのある、なしに関わらず、全ての方が自ら意識することがより効果的です。みんなで大切な命を

守っていきましょう。今後も交通事故ゼロを目指し活動を行います。併せて、お忙しい中、指導に来て下さった警察署の方にも感謝申し上げます。

春の交通安全街頭指導



5月11日(木)、晴れやかな春の朝、春の交通安全街頭指導が市役所にて取り行われました。

堀内市長さん、警察署長さん、交通安全に関わる各種団体の方々が多数参加していました。私たち婦人会も、市役所周辺道路にて街頭指導とグッズ等の配布の手伝いを行いました。ドライバーの皆様のご協力には感謝の気持ちでいっぱい입니다。

富士吉田市は車社会です。日々運転には気をつけて事故の無い富士吉田市になることを願っています。

交通安全運動推進会議

春の交通安全運動が始まるのに先立ち4月25日(火)、富士吉田市民会館小ホールにて、令和5年度交通安全運動推進会議が開催され、関係各所の多くの方が出席しました。

交通事故から大切な人命を守るという事はもちろんですが、昨今の外国人観光客の増加によって想定していない場所での写真撮影が危険を伴っており、問題となっています。

会議ではそのような話題もでておりましたが、自身も日々の安心安全を心掛けながらの運転者であり歩行者でありたいという思いを改めて強く致しました。

また、この会議に参加させていただき、微力ながらも一個人として交通安全に対して新たに協力出来ることはさせていた



だきたいと思いましたが、良い機会をいただき一市民として思いを新たにしております。ありがとうございます。

泉瑞祭

6月3日(土)、泉瑞祭が行われました。富士吉田市民の生活を支えてきた湧き水に感謝し自然保護と共に入会地の保全を目的とし、毎年6月第1土曜日に実施されています。

由来をお話ししますと、建久4年(1194年)、源頼朝が富士の巻狩りの際、渇きに苦しむ将士のために浅間明神を念じて岩を鞭打ったところ霊水が湧き出したのが事の起りだそうです。



当日は、大雨の影響により会場が上吉田コミュニティセンターに変更となりました。式典は無事に執り行われ、4年ぶりに上吉田連合婦人会役員は富士吉田連合婦人会のみなさまのお力添えをいただき、計24名による3曲の踊りを奉納できたことに感謝いたします。

神事に参加し、貴重な体験をさせていただきました。

富士山開山祭



6月30日(金)、富士山の開山前夜祭が行われました。「富士講」の人たちと共に婦人会も白装束を身にまとい、金鳥居公園から北口本宮富士浅間神社までの道のりを歩きました。

始めて着る白装束には戸惑いもありましたが、皆で助け合いながら着ることができました。『神仏の世界に入る』という意味の白装束を着たことで気持ちが引き締まる感じがしました。

神社境内に着いて富士登山の安全を願いながら3曲の踊りを奉納しました。「息が合っていた」と声を掛けられ、婦人会の結束(絆)も深められました。

その後、神事が行われ茅の輪をくぐりました。「手力男命」が登山道入り口のしめ縄を切り、登山道が今年も開かれました。

富士山の近くに住んでいながら、このような行事が脈々と受け継がれていることを初めて知りました。毎日見ている富士山の文化のことも知り、守っていかねばならないと感じました。貴重な体験が出来、感謝しています。

市民夏まつり

猛暑の中、7月29日(土)に6年ぶりの富士吉田市制祭「市民夏祭り」が行われました。当日は、富士吉田市連合婦人会90名の一人として参加させていただきました。

その日の夕方から、歩行者天国になった本町通りで市民と一緒に浴衣姿で夏祭りにふさわしい踊りを3カ所で披露し、10年を迎えた世界遺産の富士山も私たち婦人会を応援しているように見えました。

メインの中銀会場では、婦人会長を中心に、副市長や教育長、また市議会議員の皆様にも参加いただき、盛大に踊りの披露がで

き、フィナーレを飾ることができました。



夏祭りについては、ここ数年のコロナ禍や悪天候で開催できず、六年ぶりの開催になりましたが、

ここに至るまでには、日頃の練習を重ね、全員で一つとなり、忘れられない素敵な思い出の1日になりました。

最後に、これまで応援していただいたスタッフの皆様には心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

環境フェスティバル

7月22日(土)、環境問題を考えるきっかけにしたいと、主に子どもたちを対象にECO実験・パフォーマーのらんま先生を招いたサイエンスショーがふじさんホールで開催されました。

「田んぼにタニシやほとけじょうの姿を今見ることが出来ません」と冒頭の実行委員長挨拶から深刻な環境の変化が語られました。らんま先生は水とエコの実験や、世界一の大型空気砲の実験などに地球環境の話やSDGsのことを織り交ぜながらパフォーマンスを繰り広げました。

例えば、アフリカの干ばつやマイクロプラスチック、再生可能エネルギーなどみんながもっと関心をもち、一人ひとりが無理なく楽しく自分の中の3R(リデュース、リユース、リサイクル)を続けることが地球の未来に優しい暮らし方なのだと、楽しい実験を通して学ぶことが出来ました。



恩賜林草取り



7月14日(金)に、恩賜林庭園の草取りボランティアに参加しました。

コロナの位置づけが5類に移行されたため、マスク着用も自由になり、20年に一度の猛暑と言われた今年は、各自で暑さ対策に取り組んで作業を行いました。市連から冷え冷えの首マフラーが届き気持ちよかったです。

午前と午後の部に分かれて、組合員さんの誘導により道具を借りて草取りをする人、腰丈の枝の伐採をする人、竹ぼうきで掃く人、皆で一生懸命作業にあたりました。休憩時間の水分補給や冷えたスイカが最高でした。「西欧庭園」を皆で眺め、訪れた人が気持ちよく帰っていくようお願いながら作業を終りました。猛暑の中、皆さまお疲れさまでした。ありがとうございました。

富士登山競走給水ボランティア

第76回富士登山競走が7月28日(金)、快晴の下、富士山を舞台に開かれました。

世界文化遺産登録から10年の今年は、47都道府県、海外10カ国から2964人が出場し、日本一の山岳コースを駆け上がりました。

私たち婦人会は、中の茶屋にて給水ボランティアとして参加しました。汗びっしょりになって走ってくるランナーに柄杓で頭から水をかけたり、冷たくておいしい富士山の水やレモン水を提供したり、「頑張れ」と大きな声で声援を送ったり、ランナーと同じようにびっしょりになりながら活動しました。

大勢のランナーがこれ程までに必死になって走る姿に、富士山の偉大さと魅力を確認するとともに、当たり前に毎日眺められることに感謝しなくてはいいなと思いました。

大会準備に携わった関係者の皆様のご苦勞を労いつつ、来年も無事に大会が開催されることを願っております。

終わりに、この原稿を書くにあたり、昭和27年第1回登山競走の優勝者が私の亡き父であることを思い出しました。



太陽の集い



10月14日(土)、富士吉田市立看護専門学校体育館にて、第53回太陽の集いが行われました。当日は婦人会10名の参加により、プログラムの進行、ゲームへの誘導をしました。

この太陽の集いは、様々な障害をお持ちの方や、その家族などが軽スポーツを通して交流し、体力の維持増進や社会への参加を促進することを目的に開催されたものでした。150名の参加者により、始めの体操、パン食い競走、大玉転がし、お宝釣りを行いました。

私は、視覚障害の方のガイドを担当しました。車からの迎えから体育館入

場、ゲームへの参加を、言葉で伝える、手をたたき音で伝えるなど貴重な体験でした。みんな楽しそうに、笑顔で参加していて、とても楽しい時間を過ごしました。

南都留地域教育推進連絡協議会

6月14日(水)、梅雨空の日、勝山ふれあいセンターさくやホールにて、南都留地域教育推進連絡協議会が開催されました。南都留地域の教育関係者が多数出席され総会、講演会が行われました。総会では令和5年度事業計画「この会はずいも私たちの教育は地域全体で担う」を柱に学校、保護者、地域行政が一体となり、地域ぐるみで教育と環境づくりに取り組む目的が紹介されました。

総会の後は、都留文科大教育学部地域社会学科教授で同地域交流教育センター長の鈴木健太氏を招き「新しい結びつきで広がる教育の可能性」と題した講演が開催されました。

人口減少、少子高齢化の中、どのようにこの課題に向き合っていくのか鈴木教授の各地域での体験を元にした話をお聴きし、私たちにも何か出来ることがあるのではと考える貴重な経験になりました。



赤十字災害救護訓練

9月20日(水)に、大月市の体育館における災害救助訓練に参加しました。

地震をはじめ、豪雨による災害や竜巻、火災など私たちの周りには多くの災害発生リスクがあります。そのように時に、どのように行動すれば良いのか、命を守る手段の一部を学ぶことが出来た訓練でした。

参加者は応急手当と炊き出しチームの二つに分かれて実践訓練を行いました。倒れている人を発見した場合の対応、怪我の応急手当方法、炊き出し器具の扱いと米の炊き方など日常では経験することのない貴重な学びを得ました。

でも、いざ災害が発生した時、はたして学んだ通りに行動することが出来るだろうかと不安が生じたのも確かです。一人で出来ることは限られるとすると、よ



り多くの方に今回の経験を伝えることも大切だと感じました。

婦人会は地域の赤十字奉仕団員としての役割を担っているのでもしもの場合、周囲と協力し、少しでも救助の役に立ちたいと思いました。

災害ボランティア研修会

8月11日(金)、災害ボランティアセンター研修会に参加しました。

NPO法人災害防災ボランティア未来の会・山下さんは、「ボランティア活動は経験がなくても、手伝いたいと思う気持ちが大切、無理せず出来る事をすること。相手の



人格を尊重すること、現地に行かなくても誰にでも出来る事を行動する」などをお話しされました。

大切な事は、相手の気持ちを理解し手を差し伸べることが出来る勇気と、優しさである事を教えていただきました。

防災フォーラム

富士吉田市では、9月の第1日曜日を「富士吉田市防災の日」と定め、子どもから大人までみんなが防災を考え行動す



る日として、訓練や各種イベントに取り組んでいます。

今年は、9月3日(日) ふじさんホールにおいて、富士山噴火を想定した避難訓練や、災害時炊き出し食試食体験などが行われ、その一環として『富士山噴火を知る』と題した防災専門家と市長によるパネルディスカッションが行われ、婦人会として参加してきました。

富士山噴火については、これまでに火山避難基本計画が改定されており、その中心的な役割を担った専門家が登壇していました。この中では、避難対象エリアを決めたり、原則徒歩による避難、広域避難、自主的な分散避難など富士山噴火を知る様々な意見を伺うことができました。

今回の防災フォーラムに参加をして、婦人会の立場で、富士山噴火に対しどのように備え、どのように活動に繋がって

赤十字献血ボランティア

くか考えさせられた1日になりました。

6月16日(金)、赤十字奉仕団として献血ボランティアに参加させていただきました。晴天に恵まれ大勢の方が来場され、私達は献血者の誘導、体調の確認、お礼の粗品の手渡しのお手伝いをしました。お仕事の方、学生さん、老若男女の方に命を繋ぐボランティアに参加していただき多くの患者さんの命が救われる事、人々の優しさに感動しました。

基準を満たした16歳から69歳の方なら献血が可能だそうです。献血することに抵抗がある方もいると思いますが、この献血が誰かのためになる事、それぞれの思いを胸に、献血ボランティアに参加出来た貴重な1日でした。



その後、静岡県産の木材を多く使った隈研吾氏のデザインによる日本平夢テラスにて、日本平の歴史や文化の展示を見

- 三陸塩蔵生昆布
 -
 - 1袋500g
660円
(税込)
 - 賞味期限3カ月
(要冷蔵)
- 国内産とろろ昆布
 -
 - 1袋80g
440円
(税込)
 - 賞味期限10カ月
(未開封常温)
- 鳴門の塩蔵生わかめ
 -
 - 1袋400g
685円
(税込)
 - 賞味期限4カ月
(要冷蔵)
- エキストラバージンオイル
 -
 - 1本450g
2,500円
(税込)

そのため、本年度より1円玉募金を「ふれあい募金」と名称を変更し、活動することとなりました。皆様よりいただきましたふれあい募金を下記の通りに配分し寄付しました事をご報告致します。ご協力、ありがとうございます。



・富士吉田市社会福祉協議会……………	100,000円
・赤い羽根募金……………	35,000円
・令和5年台風13号の災害給付（日本赤十字社）…	30,000円
・市連災害備蓄金……………	38,841円
合 計	203,841円

令和5年度役員

[illegible]

各地区婦人会の様子

● 下吉田地区 ●



「新春の集い」にてダンスを披露

その他、毎月10日の早朝にシートベルト着用調査、富士山開山前夜祭、恩賜林草取り作業、富士登山競争の給水活動など、様々な行事に仕事や家事が忙しい中、皆で心を一つにして参加していただきました。会員の皆様、ありがとうございました。

● 上吉田地区 ●



「すすき祭り」にて

上吉田婦人会にとって、地元上吉田地区における大切な行事のひとつである「すすき祭り」が、令和5年も8月27日(日)に開催されました。

上吉田婦人会の皆の手によって、一つ一つ丁寧にすすきの穂に御守りをつけ仕上げた「すすき玉串」を、昨年より数が増やして用意したものの、多くの参拝客や地元の方々にご購入いただき、早々に

完売となる嬉しい状況となりました。

販売を終え、浅間神社境内にて「富士吉田音頭」他2曲、踊りの奉納をさせていただきました。上吉田婦人会では、4月から始めた踊りの練習に一生懸命取り組んで参りましたが、努力の甲斐がありこの「すすき祭り」においても、全員が自信を持って踊る事ができました。

また、大変嬉しい事に周りの方々にも、踊りを褒めていただきました。私達上吉田婦人会にとって「すすき祭り」は、色々な達成感と、皆との絆の深まりを感じる事のできた尊い行事となりました。

このように、私達が婦人会活動で貴重な経験ができるのは、これまで多くの先輩方が、上吉田婦人会を守り繋いできてくださったおかげです。ここに改めて感謝いたします。ありがとうございました。

● 大明見地区 ●

9月24日(日)、大明見小室浅間神社境内にて、北東本宮神楽会新衣装披露目の会が執り行われ、大明見連合婦人会も参列いたしました。

大明見地区では、明治時代から伝わる伝統芸能の神楽を継承するにあたり、神楽会において、経年劣化及び消耗著しい衣装備品等を全国自治宝くじ助成事業の助成を受け、実現することとなりました。

なかでも、大正時代より受け継がれてきた稚児の舞(浦安の舞)の舞手である小、中学生は令和3年からこつこつと日々練習に励み、この日約60年ぶりに見



「新春の集い」にてハンドベルを披露

事な舞を披露してくださいました。高く澄み渡った秋の空に神楽鈴の音が響き渡り、これからの大明見地域の文化継承の担い手に大きな期待を寄せることが出来た1日でした。

編集後記

コロナ禍を乗り越え、今年度は以前のように活発で楽しい活動を行うことが出来ました。掲載したいことがたくさんありましたが、限りあるページを通して少しでも婦人会活動がお伝え出来たら幸いです。

